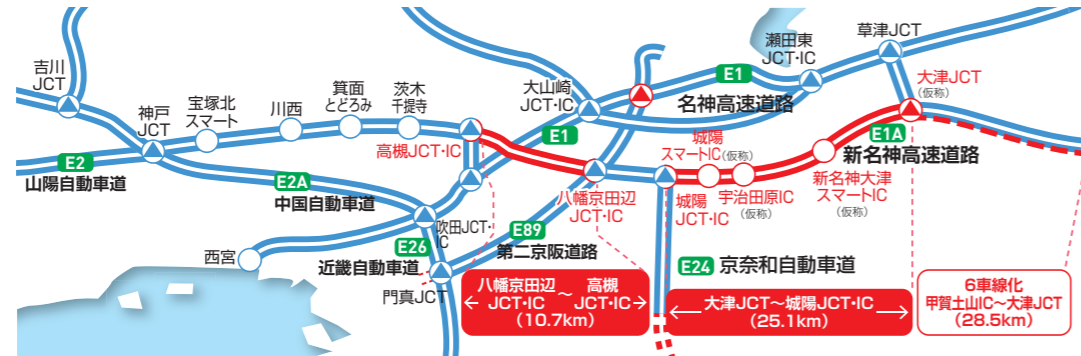




高速道路ネットワークの着実な整備

当社では、地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献するため、より安全で使いやすい高速道路ネットワークを構築することを目的とし、新名神高速道路などを含む6道路71kmの区間の新設事業を行っています。

新名神高速道路（大津～城陽、八幡京田辺～高槻）



播磨自動車道（播磨新宮～宍粟）



徳島南部自動車道（徳島沖洲～徳島）



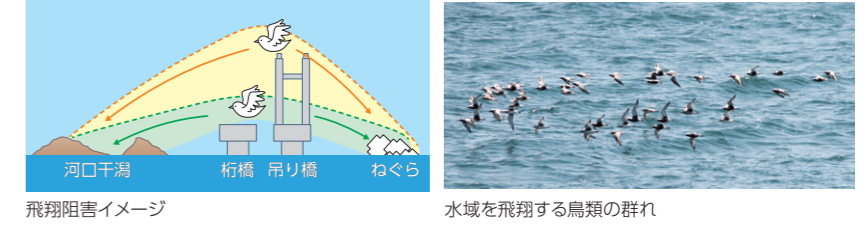
徳島南部自動車道吉野川大橋(仮称)環境保全対策

吉野川の河口に整備する吉野川大橋(仮称)周辺は、数多くの生物が生息・生育しており、さらに、シギ・チドリ類をはじめとした数多くの渡り鳥が飛来するなど、豊かな自然を備えた水辺空間が多く残され、地域のシンボルとして親しまれています。

これらの豊かな河川環境を後世に継承するよう環境保全に取り組んでいます。

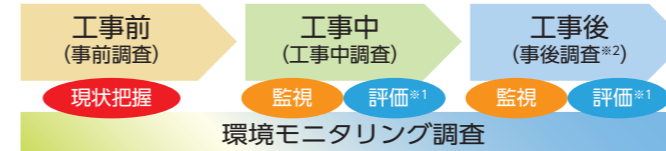
◎環境保全に配慮した橋梁形式の採用

鳥類の飛翔阻害軽減のため、主塔やケーブルのない桁橋の採用



◎環境モニタリング調査の実施

橋脚整備による周辺環境及び生物への影響監視を目的に、工事実施段階(工事前・工事中・工事後)において、環境監視・評価を行いながら進め、必要に応じて環境保全対策を検討していきます。



※1：評価の後、必要に応じて環境保全対策を検討します。
※2：事後調査は、工事完了後2年間実施します。



TOPICS 大和北道路・神戸西バイパスの新規建設事業

大和北道路は、京都と和歌山を結ぶ延長約120kmの京奈和自動車道のうち、京奈道路の木津ICから西名阪自動車道までの区間、延長約12.4kmの道路です。



奈良県の政治経済の主要拠点であり、世界遺産等の観光資源が豊かである奈良市と、県内各都市及び県外からのアクセスの向上により、経済活動の活性化及び広域的な観光振興を図ります。

また、国道24号の渋滞緩和や、一般国道での交通事故の削減等を図ります。

■国道24号の渋滞状況



発志院町西交差点付近

神戸西バイパスは、兵庫県神戸市を起点とし、兵庫県明石市に至る総延長約12.5kmの道路です。



永井谷JCT～石ヶ谷JCT間が開通することにより、既に開通済みの垂水JCT～永井谷JCTと接続することで、交通混雑が著しい神戸市西部地域において、交通混雑の緩和、交通安全の確保、災害時の代替機能の強化など地域の発展に貢献すると期待されます。

■第二神明道路の渋滞状況



明石SA付近

さらなるネットワーク強化の取り組み

当社では、暫定2車線区間における交通渋滞の解消や安全性のさらなる向上を目的とし、渋滞や事故が多く発生している区間から順次、4車線化を進めています。

■暫定2車線区間の課題

4車線区間と比較すると規制速度が低く低速車両の追越ができないため、後続車両を含め全体的に速度が低下



阪和自動車道 印南IC～みなべIC

冬季の積雪等により立ち往生車両が生じた場合、立ち往生車両の追越ができないため、通行止め等が発生



米子自動車道 森山IC～江府IC

災害が発生すると長期通行止めが余儀なくされ、緊急輸送路としての機能を発揮することができず、地域社会・経済に大きな影響



2018年西日本豪雨による広島県道路

■4車線化の計画

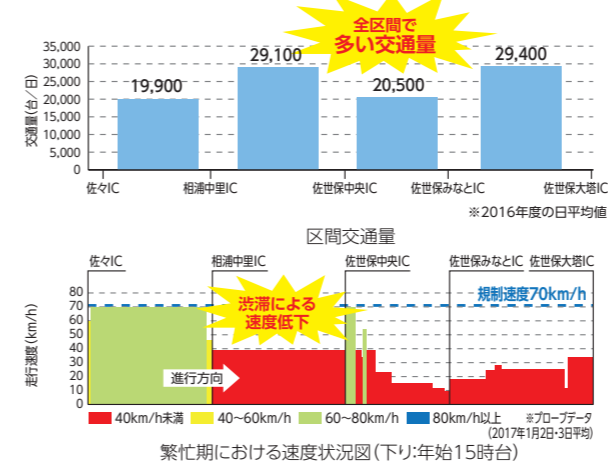


■4車線化事業の推進(佐世保道路4車線化事業)

佐世保道路佐々IC～佐世保大塔IC間の約16.9kmで4車線化事業を進めています。当該事業は、供用中の佐世保道路を2車線から4車線へ拡幅する事業です。この整備により、安全性・走行性の向上、産業・経済・文化の発展に貢献すると期待されます。



①交通量の多い区間では約3万台/日の利用があり、交通集中等により速度低下が生じています。



佐々佐世保道路の渋滞状況



佐世保道路の渋滞状況

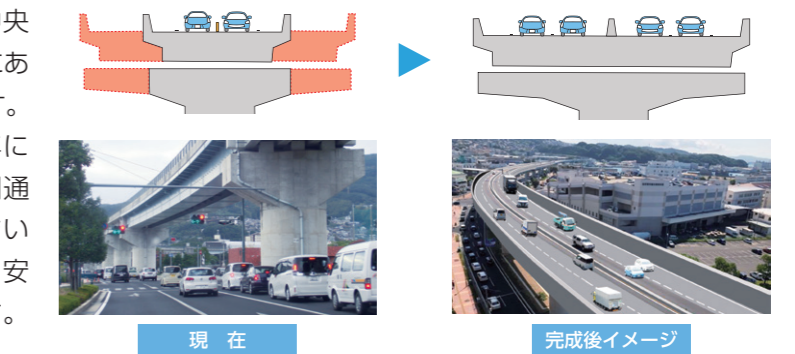
渋滞解消による
物流効率化と
企業立地促進

4車線化効果

②交通事故の多発と反対車線への突破事故が発生しています。



反対車線への突破による事故事例 相浦中里IC付近



剛性の高い
中央分離帯の
設置による
中央突破事故の減少

③暫定2車線で供用している橋梁の両端に1車線ずつ追加することで4車線化を実現します。

佐世保駅前約1.9kmでは、県道11号の中央部に佐世保道路の橋脚があり、この橋脚の上部にある橋梁の両側を拡幅する4車線化工事を行います。この工事により、2021年9月頃から約5年にわたり、随時、佐世保道路と県道11号の夜間通行止めを実施します。お客さま、沿道にお住まいの皆さまへご不便、ご迷惑をお掛けしますが、安全確保のため、ご理解とご協力をお願いします。

TOPICS 後続車無人隊列走行の実現を見据えた整備 ～新名神高速道路の6車線化の推進～

物流業界では、近年、トラックドライバー不足が深刻化する中で労働生産性の向上や働き方改革の実現など、短時間で長距離の輸送を可能とし、輸送効率の向上に寄与する高速道路の重要性が高まっています。現在、後続車無人隊列走行システム(東京～大阪間)の商業化が進められており、実現に向けた安全で円滑な走行区間の確保などの観点から新名神高速道路の6車線化等を進めています。

